

長岡京市第4次食育推進計画

(素案)

＜第2章～第4章のみ＞

～すくすく育て！心と体のびやかに
食でつながる ながおかきょう～

令和8年3月



第2章 長岡京市第3次食育推進計画の評価

1. 最終評価の趣旨

「第3次計画」は令和2年度から令和7年度までの5年間の計画であり、最終年度である令和7年度に令和6年度の実施結果に基づき、最終評価を実施しました。最終評価では、目標の達成状況を明らかにすることにより、新たな課題や今後の取組報告を確認しました。

本計画ではこの最終評価結果を十分に踏まえ、計画の内容を策定しています。

2. 最終評価方法と概要

今回の評価では、16の数値目標の達成状況とその達成に向けた5年間の取り組みを評価し、目標達成度別にまとめました。

評価には、策定時と同様に実施した市民への食と健康に関するアンケート調査や各種健康診査等のデータを使用しました。

評価方法は、策定時と評価時の値を比較し、目標に対する達成状況について以下のとおり評価しました。

【最終評価の概要】

目標の達成度について A（目標達成）が4項目（25.0%）、B（目標は達成していないが、改善傾向）が4項目（25.0%）、C（変化なしまたは悪化傾向）が6項目（37.5%）、D（悪化）が2項目（12.5%）となっています。

●最終評価における目標達成度の概要

目標達成度	説明	該当項目数
A	数値目標を達成したもの	4（25.0%）
B	数値目標は達成していないが、改善が見られたもの	4（25.0%）
C	策定時に比べ、あまり変化がないまたは悪化傾向のもの	6（37.5%）
D	策定時に比べ、目標から遠ざかっているもの	2（12.5%）

3. 数値目標別目標達成状況

項目 番号	目標項目		策定時 (令和元年度)	最終評価 (令和6年度)	目標値	達成 状況
◆「食を通じての健康な体づくり」						
1	食育に関心を持っている市民の割合 * 令和元年度・令和6年度「長岡京市食と健康に関するアンケート」	「関心がある」「どちらか といえば関心がある」の 合計	82.2%	65.8%	90%以上	D
2	朝食を食べている市民の割合 * 令和元年度・令和6年度「長岡京市食と健康に関するアンケート」	16歳以上の市民	87.7%	83.2%	90%以上	D
3	主食・主菜・副菜のそろった食事を1日2食以上食べている 市民の割合 * 令和元年度・令和6年度「長岡京市食と健康に関するアンケート」		55.7%	56.0%	58%以上	B
4	やせや肥満者の割合 * 令和6年度乳幼児健診（3歳6か月児健診） 令和6年度国保特定健診（40～60歳代） 令和6年度20・30歳代の健康診査 令和6年度長寿健診	3歳6か月児	肥満 1.5%	肥満 0.4%	肥満 3%未満	A
			やせ 0%	やせ 0.1%	やせ 1%未満	A
		小学生	肥満 5.5%	肥満 4.8%	肥満 3%未満	B
			やせ 2.0%	やせ 0.5%	やせ 1%未満	A
		30歳代 女性 やせ	21.4%	23.7%	15%未満	C
		40～60歳代 肥満	男 28.9%	男 30.3%	男 20%未満	C
			女 19.0%	女 19.7%	女 15%未満	C
		75歳以上 低栄養傾向者	21.6%	22.0%	22%未満	C
◆「食を通じたコミュニケーションづくりと豊かな人間性の育成」						
5	家族と一緒に食事をとっている割合 * 令和元年度・令和6年度「長岡京市食と健康に関するアンケート」	ほぼ毎日	62.2%	66.3%	70%以上	B
		ほとんどない	5.2%	6.9%	5%未満	C
6	食に関するイベントや農業体験などに参 加する市民の数	食育ひろば来場者数	616人	1093人	700人以上	A
◆「地域の食育推進と食文化の伝承」						
7	地元産農林産物の利用を心がけている人の割合 * 令和元年度・令和6年度「長岡京市食と健康に関するアンケート」		17.2%	13.0%	30%以上	C
8	次世代に地元特産品や行事食を伝えている人の割合 * 令和元年度・令和6年度「長岡京市食と健康に関するアンケート」		26.3%	28.1%	30%以上	B

全体としては、8の数値目標の16項目中、達成が4個、改善傾向が4個、変化なしまたは悪化傾向が6個、悪化が2個であり、改善率は50.0%（8/16）でした。

大きく目標値から遠ざかった項目として、「食育に関心を持っている市民の割合」がありますが、食育への関心は、国の第4次食育推進基本計画で定める数値目標の進捗状況報告（令和6年度）においても、第4次基本計画作成時の令和2年度から2.4ポイント減少し80.8%と、目標値の90%以上に対して悪化しています。国の調査*では、食育への関心が低い理由として、近年の物価高騰に伴い食費を抑えることを重視する「経済性志向」が高まっていることの影響が大きいことや、特に食育への関心が低い20歳代男性においては、「食事や食生活を特に意識しなくても健康であるため」と回答した者が多いとされています。

一方、食育への関心は低くなっているものの、日常の食生活の大切さや、食事バランスの必要性は浸透してきています。主食・主菜・副食のそろった栄養バランスのよい食事を夕食にとる割合は多く、1日2食以上栄養バランスのよい食事を食べている市民の割合は増加しており、栄養バランスのよい食事をとっている市民は定着してきています。消費者動向調査によると、食の「簡便化志向」は40%を超える上昇傾向である中、簡単に栄養バランスのよい食事がとれる工夫についての情報提供等を行うことで、今後も栄養バランスのよい食事をとっている市民の増加を目指す必要があります。

朝食を食べている人の減少や家族と一緒に食事をとっている割合の低下については、就労家庭や高齢単身家庭の増加等に伴い、朝食の時間や家族と一緒に食事をとる時間を確保できないことが考えられます。国の調査*においても共食の回数は減少傾向で、「孤食」になる背景として世帯構造の変化をあげています。

地元産農林産物や特産品等への意識の低下については、地元生産物量の流通量の低下等により馴染みが薄くなってきていることが一因と考えられます。

保育所や小学校、中学校では、給食の活用により熱心に食育に取り組んでいます。高校生以降も食に対する意識を維持できるよう、今後は、正しい知識の普及、意識の改革とともに具体的な行動の改善につながる食環境づくりを行っていく必要があります。

* 食育に関する意識調査（農林水産省）

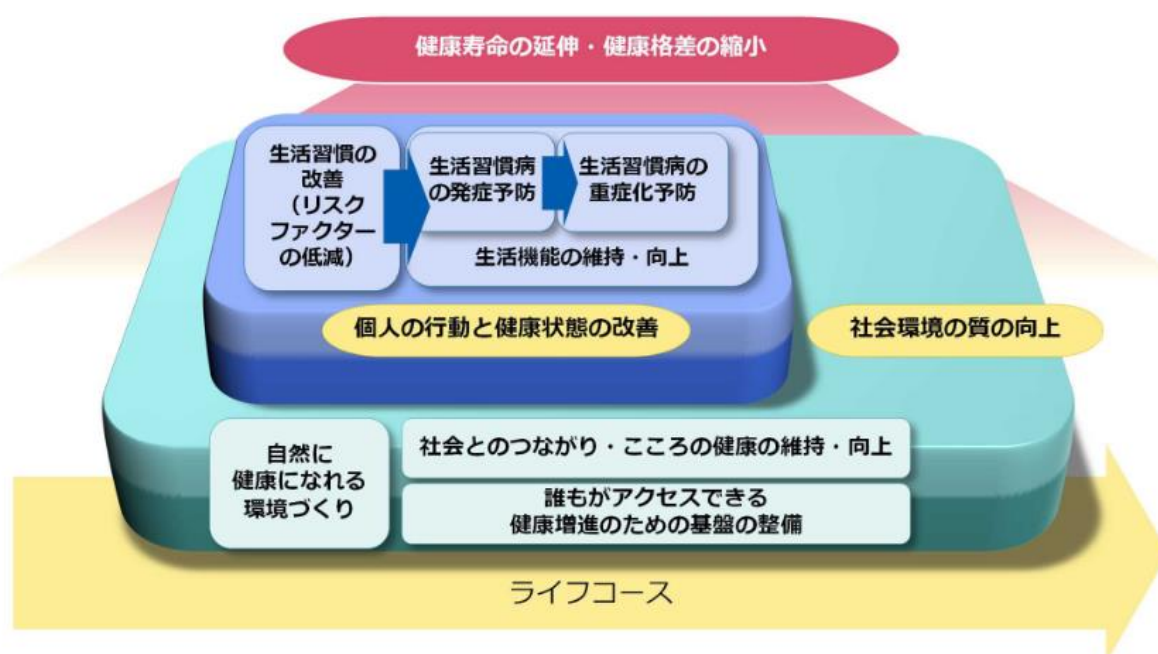
第3章 長岡京市第4次食育推進計画

1. 各世代の特徴と生涯を通じた食育の取組

人生の各ステージにおいて、食事や食習慣は私たちの心身に大きな影響を与えます。ライフステージに応じた食生活はもちろん、各ライフステージにおける食生活が将来の健康状態や次の世代に与える影響を見据えて行動する「ライフコースアプローチ」の考え方をもって食育を推進することが大切です。

令和6年度からの健康日本21（第三次）においても、ライフコースアプローチを踏まえた下記概念図の方向性で健康づくりを進めるとされています。

【健康日本21（第三次）の概念図】



出典：厚生労働省ホームページより

■ライフコースアプローチを踏まえた食育の取り組み

ライフステージ	小児期 0～5 歳	少年期 6～15 歳	青年期 16～29 歳	壮年期 30～64 歳	高齢期 65 歳以上
特徴	身体と心の基礎が形成される時期	心身の発達が著しい時期	心身の発達が頂点に達し、その機能が十分に発揮される時期	生活習慣病のリスクが高まる時期	身体機能の低下やフレイルのリスクが高まる時期
食に関する課題	偏食・好き嫌い等への対応	・朝食欠食 ・共働き世帯の増加に伴う食生活の簡便化	・食事の偏り ・朝食欠食 ・痩身志向の高まり	・外食・中食の増加 ・食事時間の不規則化	・咀嚼・嚥下機能低下 ・食事量減少 ・孤食
目標	健やかな成長と食習慣の基礎づくり	望ましい食習慣と食に関する知識の習得・定着	自立に向けた食生活管理能力の育成	・健康的な食生活の実践 ・食文化の継承	・低栄養予防 ・健康寿命の延伸 ・食文化の継承
ライフコースアプローチを踏まえた食生活					
市の食育の取り組み	・離乳食教室 ・乳幼児健診等における食事相談・講義 ・保育所(園)・幼稚園等における食育活動	・学校における食育授業 ・地元産農林産物を使った給食	・妊婦とそのパートナー向けの教室での食事の講義	・妊婦とそのパートナー向けの教室での食事の講義 ・特定保健指導 ・食事相談	・食事相談 ・低栄養高齢者への支援

2. 長岡京市第4次食育推進計画の4つの柱

1. 食を通じての健康な体づくり

生活環境の多様化に伴い、生活リズムが不規則になりがちです。また、核家族化や共働き家庭が増える傾向にあり、食事形態も様々で、栄養バランスは個人の嗜好に偏りやすくなりがちです。その結果、肥満や生活習慣病、やせなどの健康問題が起きています。家庭、保育所、幼稚園、学校、地域、食に関する関係機関や団体が連携・協働してライフステージに応じた信頼できる食情報を提供し、自らが適切な判断を行う能力を身に付け、食生活の改善をはかり、健全な食生活を目指します。

2. 食を通じたコミュニケーションづくりと豊かな人間性の育成

「同じ釜の飯を食う仲」というように、人と人をつなぎ、コミュニケーションづくりをする場として、食は大きな役割を果たします。人と人とのつながりという視点からとらえた食の役割を各種事業において伝え、コミュニケーションづくりや、それによって育まれる豊かな人間性の育成を目指します。

また、SDGsの観点から、食品ロスに配慮した食行動をとれる市民の増加を目指します。

3. 地域の食育推進と食文化の伝承

特産品である「タケノコ」「ナス」「花菜」、郷土料理である「いとこ汁」といった長岡京市の食文化はもちろんのこと、京都府や日本独自の食文化を大切に、次世代へ伝えていきます。

4. 食のネットワークづくり

外部団体とつながりのある部署と連携しながら、行政内部での連携を深めます。地域において、食に関する活動を展開しているボランティア・食品関連事業など様々な分野の関係団体と行政関係者が連携を深めることにつなげます。

1. 食を通じての健康な体づくり

◎行動目標

- ・適正体重を維持できる食事量を実践する
- ・栄養バランスのよい食事を実践する
- ・塩分量に気を付けた食生活を実践する
- ・肥満のリスクである速食いをせず、ゆっくり食べる

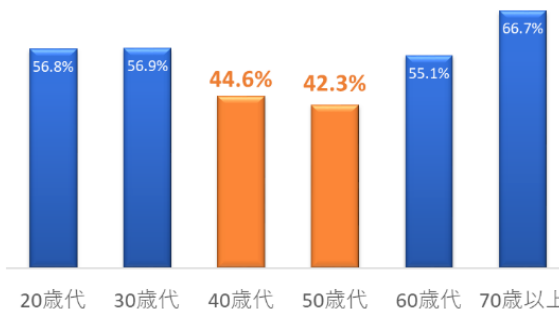
◎市民の現状

主食・主菜・副菜のそろったバランスのよい食事を1日2食以上とっている市民の割合は、平均56%と、国の現状値（令和6年度36.8%*）より高いです。年代別では、働き世代の40・50歳代で40%前半と低く、忙しい中でバランスのよい食事をとる工夫の啓発が必要です。各世代平均の食事別のバランスをみると、夕食では約8割がバランスのよい食事をとっているものの、朝食・昼食では約半数と低い現状です。

野菜摂取量は京都府平均より高く、果物摂取量も京都府平均と同程度ですが、国の目標摂取量は野菜350g/日・果物200g/日であり、野菜は+100g・果物は+80g摂取量を増やすことが求められます。また、食事内容を見ると、脂質の高い食事をとっている市民が多い傾向にあります。

* 食育に関する意識調査（農林水産省）

1日2食以上バランスのよい食事をとっている
長岡京市民の割合



出典：令和6年度長岡京市食と健康に関するアンケート

	長岡京市平均	京都府平均
野菜摂取量	257.3g	234.1g
果物摂取量	117g	122.1g
食塩摂取量	10.8g	10.9g
脂質エネルギー比* 30%以上	39.6%	33.4%

出典：京都府民健康・栄養調査（n=111）

* 脂質エネルギー比とは、総摂取エネルギーに占める脂質からのエネルギーの割合を示します。日本人の食事摂取基準（2025年版）では、1歳以上の男性・女性で20%以上30%未満が推奨されています。

◎数値目標

◆「食を通じての健康な体づくり」				
項目 番号	目標項目		策定時 (令和 6 年度)	目標値 (令和 11 年度)
1	食育に関心を持っている市民の割合 * 令和 6 年度長岡京市食と健康に関するアンケート	「関心がある」「どちらかといえは関心がある」の合計	65.8%	72%以上
2	朝食を食べている市民の割合 * 令和 6 年度長岡京市食と健康に関するアンケート	16 歳以上の市民	83.2%	91%以上
3	主食・主菜・副菜の揃った食事を 1 日 2 食以上食べている市民の割合 * 令和 6 年度長岡京市食と健康に関するアンケート		56.0%	61%以上
4	野菜を毎食小鉢 1 皿食べる市民の割合 * 令和 6 年度長岡京市食と健康に関するアンケート		41.3%	45%以上
5	食事の時に調味料の追加使用を抑える市民の割合 * 令和 6 年度長岡京市食と健康に関するアンケート		26.6%	29%以上
6	人と比較して食べる速度が速い市民の割合 * 令和 6 年度国保特定健診問診票 (40～60 歳代)		25.7%	23%以下

◎市全体で取り組むこと

取組内容	対象						所管課
	乳幼児期	学童期	思春期	青年期	壮年期	高齢期	
朝食を食べる必要性の啓発	○	○	○	○	○	○	健康づくり推進課 高齢介護課
欠食せず食べることは、肥満・やせともに予防することにつながることから、各ライフステージにおいて 1 日 3 食食べることの大切さを啓発します。妊婦については、妊娠中の適正増加量に該当する体重増加とすることで、低出生体重児の出生リスクを下げることに寄与します。低出生体重児は肥満のリスクが高くなるといったライフコースアプローチの視点を取り入れた啓発を実施します。各事業やイベントにおいて普及啓発します。							
野菜をとることの普及啓発	○	○	○	○	○	○	健康づくり推進課
野菜は、ビタミンや食物繊維等を多く含み、生活習慣病の予防等に役立ちます。野菜の摂取目標量、野菜をとることの効果、朝食・昼食時に役立つ野菜料理の追加方法や簡単なレシピなどを各事業やイベントにおいて普及啓発します。							

取組内容	対象						所管課
	乳幼児期	学童期	思春期	青年期	壮年期	高齢期	
適塩の普及啓発	○	○	○	○	○	○	健康づくり推進課
適塩は、高血圧の予防・改善や心疾患のリスク低下、腎臓の負担軽減に効果があります。薄味でもおいしく食べる工夫や塩分を控える効果など、適塩につながる知識を各事業やイベントにおいて普及啓発します。 さらに、保健所や市内食料品店とともに、適塩についてポップを表示する等、自然に適塩に関する知識が身につく環境づくりを推進します。							
ゆっくり食べることの普及啓発	○	○	○	○	○		健康づくり推進課
速食いと肥満の関係性について、各事業やイベントにおいて普及啓発します。							
生活習慣病予防のための相談の実施					○	○	健康づくり推進課
特定保健指導、糖尿病重症化予防事業、生活習慣病予防のための食事相談を今後も継続して実施します。							

2. 食を通じたコミュニケーションづくりと豊かな人間性の育成

◎行動目標

- ・家族や友人・仲間と一緒に食事をする
- ・食に関する感謝の気持ちを持ち、食品ロスを意識した食行動をとる

◎市民の現状

長岡京市では単身世帯が増加しており、家族と食事をする機会のない市民もおられます。特に単身世帯の高齢者については、地域に会食のできる場ができ、週に1度でも会食の機会をもつことが望まれます。

誰かと一緒に食事することは、ただ空腹を満たすだけではない、たくさんの素敵なメリットがあります。

- ・会話を通して親睦を深めたり、情報交換をしたり、楽しい時間を共有することができます。
- ・誰かと一緒に食事することで、心がリラックスし、ストレスを軽減する効果が期待できます。
- ・バランスのとれた食事を心掛けやすくなる、適切な食事量を把握できるなど、健康的な食習慣につながる可能性があります。
- ・一人での食事が減ることで、孤独感を解消し、心身の健康維持に役立ちます。

特に子どもにとって家族と食事をとることは、心の安定につながります。ただ同じ食卓についていても、各自がスマートフォンや雑誌などを見ていては意味がありません。家族で会話しながら楽しく食べることが大切です。

食品ロスとは、本来食べられるにも関わらず捨てられてしまう食品のことです。食品ロス削減への意識は高まっており、約8割の市民が「食べ残さないようにする」ことを心がけています。一方で、「食材や調味料を使い切り捨てないようにする」市民は約4割にとどまっています。

◎数値目標

◆「食を通じたコミュニケーションづくりと豊かな人間性の育成」				
項目番号	目標項目		策定時 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)
7	家族等と一緒に食事をとっている割合 * 令和6年度長岡京市食と健康に関するアンケート	ほぼ毎日	66.3%	71%以上
		ほとんどない	6.9%	6%未満
8	食材や調味料は使い切り、捨てないようにする市民の割合 * 令和6年度長岡京市食と健康に関するアンケート		41.5%	45%以上

◎市全体で取り組むこと

取組内容	対象						所管課
	乳幼児期	学童期	思春期	青年期	壮年期	高齢期	
家族等と一緒に食べる大切さの啓発	○	○	○	○	○	○	こども家庭センター 健康づくり推進課 高齢介護課
乳幼児健診や子育て応援教室、健康教室、各種イベント等において、家族と一緒に食べる大切さについて、メリットや根拠とともに啓発します。 また、高齢単身者において誰かと一緒に食べることは、フレイルや認知症の予防につながるため、地域の交流の場を活用するなど、孤食のリスクを減らすよう支援します。							
食品ロスに関する啓発	○	○	○	○	○	○	健康づくり推進課 環境業務課
食品ロスの現状と調理時において食品ロスを減らす工夫（野菜の皮の調理法、余りがちな食材の活用方法や簡単レシピ）を各事業やイベント、市ホームページや市公式 LINE 等において啓発します。 また、定期的にフードドライブを実施します。							

3. 地域の食育推進と食文化の伝承

◎行動目標

- ・長岡京市産～国産の農林産物の利用
- ・郷土料理・和食・行事食の伝承
- ・郷土料理・和食・行事食に触れる機会として、食育ひろば、ガラシャ祭、農業祭、環境フェアへの参加

◎市民の現状

- ・郷土料理については、小学校では給食メニューとなっており、長岡京市の郷土料理（いとこ汁）について学ぶ機会があります。
- ・家庭においては、単身世帯の増加や転入世帯が多いことから、郷土料理を受け継ぐ機会のない市民が多い現状です。

◎数値目標

◆「地域の食育推進と食文化の伝承」			
項目番号	目標項目	策定時 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)
9	食育ひろばへの参加者数 * まるごとヘルシーフェスタ・ガラシャ祭等における食育ひろば	1,093 人	1,000 人以上
10	地元産（京都府産）農林産物の利用を心がけている人の割合 * 令和6年度長岡京市食と健康に関するアンケート	13.0%	14%以上
11	次世代に地元特産品や行事食を伝えている人の割合 * 令和6年度長岡京市食と健康に関するアンケート	28.1%	30%以上

◎市全体で取り組むこと

取組内容	対象						所管課
	乳幼児期	学童期	思春期	青年期	壮年期	高齢期	
地元産農産物や行事食継承の啓発 農業体験の開催	○	○	○	○	○	○	健康づくり推進課 農林振興課 商工観光課
地元産農産物の現状と購入や調理法において各事業やイベント、市公式 LINE 等において啓発します。また、地元農産物を食する機会を情報提供します。							

取組内容	対象						所管課
	乳幼児期	学童期	思春期	青年期	壮年期	高齢期	
保・幼・小・中学校給食を活用した 日本の食文化の伝承啓発	○	○	○				子育て支援課 学校教育課 農林振興課
日本の食文化を認知するため、給食を通して、食べ方やマナー、調理方法等、給食を通して啓発します。また、食いく先生の活用を推進します。							

4. 食のネットワークづくり

食育を推進するには、一人ひとりが食への意識を高め、少しずつ行動を変えていく必要があります。しかし、そこには知識やきっかけ、自然により良い行動をとれる環境づくりが必要です。そのために、行政と地域の食に携わる者が協力して、市民に対し情報を発信することや環境を整えることが大切です。

◎ 目標

- ・行政と地域の食に携わる者が連携を深め、協力して食育を推進すること

◎ 現在の取り組み

- ・市内食料品店等における地元産農林産物コーナーの設置
- ・食と携わる者と行政関係者との連携

◎ 市全体で取り組むこと

取組内容	対象						所管課
	乳幼児期	学童期	思春期	青年期	壮年期	高齢期	
食環境整備のための体制づくり	○	○	○	○	○	○	健康づくり推進課 乙訓保健所
企業や食料品店等と協力し、食環境整備のできる体制づくりに努めます。							
商業地等における食に関する啓発事業の開催	○	○	○	○	○	○	健康づくり推進課 商工観光課 乙訓保健所
市民が日常的に利用する食料品店等において、適塩啓発イベントを開催したり、商品棚に適塩や野菜摂取につながるポップ等を掲示したりすることで、自然に望ましい知識が身につくことを目指します。							
学校、保育所、市内企業等における食育関連事業の情報共有、共催および協力	○	○	○	○	○	○	健康づくり推進課 子育て支援課 学校教育課 農林振興課 および他課
学校、保育所、企業等、それぞれで実施している食育関連事業についてとりまとめ、共有することで、無駄を省き、少ないパワーで効果的な取組の実施につなげます。							

取組内容	対象						所管課
	乳幼児期	学童期	思春期	青年期	壮年期	高齢期	
様々な食育の取組の連動、地域での連携強化	○	○	○	○	○	○	健康づくり推進課 子育て支援課 学校教育課 農林振興課
主に取組を実施している担当課を中心に、市役所内の関連事業等の実績照会を行い、情報共有および計画進捗状況確認を行い、計画の修正を行います。							

第4章 数値目標一覧（これまでの推移と現状値・目標値）

項目 番号	目標項目		第3次計画 策定時 (令和元年度)	第4次計画 策定時 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)
◆「食を通じての健康な体づくり」					
1	食育に関心を持っている市民の割合 * 令和元・6年度長岡京市食と健康に関するアンケート	「関心がある」「どちらかといえば関心がある」の合計	82.2%	65.8%	72%以上
2	朝食を食べている市民の割合 * 令和元・6年度長岡京市食と健康に関するアンケート	16歳以上の市民	87.7%	83.2%	91%以上
3	主食・主菜・副菜の揃った食事を1日2食以上食べている市民の割合 * 令和元・6年度長岡京市食と健康に関するアンケート		55.7%	56.0%	58%以上
4	野菜を毎食小鉢1皿食べる市民の割合 * 令和6年度長岡京市食と健康に関するアンケート		—	41.3%	45%以上
5	食事の時に調味料の追加使用を抑える市民の割合 * 令和6年度長岡京市食と健康に関するアンケート		—	26.6%	29%以上
6	人と比較して食べる速度が速い市民の割合 * 令和6年度国保特定健診問診票（40～60歳代）		—	25.7%	23%以下
◆「食を通じたコミュニケーションづくりと豊かな人間性の育成」					
7	家族等と一緒に食事をとっている割合 * 令和元・6年度長岡京市食と健康に関するアンケート	ほぼ毎日	62.2%	65.3%	71%以上
		ほとんどない	5.3%	6.9%	6%未満
8	食材や調味料は使い切り、捨てないようにする市民の割合 * 令和6年度長岡京市食と健康に関するアンケート		—	41.5%	45%以上
◆「地域の食育推進と食文化の伝承」					
9	食育ひろばへの参加者数 * まるごとヘルシーフェスタ・ガラシャ祭等における食育ひろば		616人	1,093人	1,000人以上
10	地元産（京都府産）農林産物の利用を心がけている人の割合 * 令和元・6年度長岡京市食と健康に関するアンケート		17.2%	13.0%	14%以上
11	次世代に地元特産品や行事食を伝えている人の割合 * 令和元・6年度長岡京市食と健康に関するアンケート		26.3%	28.1%	30%以上

<目標値の設定方法>

ベースライン改善法（現状の実績に対して、一定の改善率を乗じて目標値を設定する KPI（重要業績評価指標）設定手法の一つ）に基づき、第 4 次計画策定時（令和 6 年度）の現状値から 10%改善する値（小数点以下切り捨て）を目標値として設定しています。

ただし、目標項目 9「食育ひろばへの参加者数」については、現状の実施体制に合わせた目標値としています。

下記については、目標項目には定めませんが、ライフコースアプローチの考え方から推移を把握しておくべき内容であることから、参考値として掲載していきます。

参考値		第 3 次計画策定時 (令和元年度)	第 4 次計画策定時 (令和 6 年度)
やせや肥満者の割合 * 3 歳 6 か月児健診 小学校身体計測結果 20・30 歳代の健康診査 国保特定健診（40～60 歳代） 長寿健診	3 歳 6 か月児 肥満度±20%以上	肥満 1.5% やせ 0.0%	肥満 0.4% やせ 0.1%
	小学生	肥満 5.5% やせ 2.0%	肥満 4.8% やせ 0.5%
	30 歳代 女性 やせ (BMI18.5 未満)	21.4%	23.7%
	40～60 歳代 肥満 (BMI25 以上)	男 28.9% 女 19.0%	男 30.3% 女 19.7%
	75 歳以上 低栄養傾向者 (BMI20 以下)	21.6%	22.0%